

北栄町議会議長 前田栄治様

北栄町議会議員 萩原美百合

議員派遣結果報告書

1	名 称	関係人口関係者向け勉強会（セミナー） 関係人口とともにつくる『にぎやかな過疎』
2	場 所	大栄農村環境改善センター 2階 大会議室
3	期 間	令和7年12月16日（火） 1日間
4	内 容・成 果	<p>主催：北栄町 出席者：北栄町議会議員、関係人口関係者、町職員 講師：小田切徳美氏 明治大学農学部食料環境政策学科 教授</p> <p>内容：</p> <p>1：関係人口の実態 関係人口とは「地域に関わってくれる人口」のこと。 関係人口議論の活発化の背景には3つの要素がある ① 若者のライフスタイルの多様化 ② SNSによる関り手段の高度化 ③ 「関わること自体に価値がある」意識の発生</p> <p>2：関係人口チャート（関係人口は「関りの階段」で示せる） 縦軸を関心度、横軸を関りの度合いとする。 無関係（無関心・無関与）から特產品購入、ふるさと納税、 頻繁な訪問、二地域居住と階段を上がり、移住に至る。 移住のプロセスは多様で、階段のパターンは色々ある。 次の階段への移動を円滑化する観点が重要。</p> <p>3：関係人口の課題と政策対応 2つの前提がある ① 関係人口を移住候補者としてのみ捉えない ② <u>1つの政策パッケージ（総合政策）とする。</u> 新しい横割り領域としての「人と地域のつながり創造政策」とする 関係人口3つの難点 ① 見えない⇒「見える化」できるか 誰が関係人口か。⇒「ふるさと住民登録制度（'26年度）</p>

		<p>スタート)」</p> <p>見える化による関係人口のつながり強化</p> <p>② 離れやすい⇒「関係性持続化」できるか</p> <p>「関与」の後退を「関心」の後退につなげない</p> <p>より関係性を強める手段として返礼品開発</p> <p>ふるさと納税：產品名だけで、地域名は出てこない。</p> <p>だとするなら、「関係人口論的運用」の取り組みが必要。</p> <p>(地域に来ていただく体験制度等)</p> <p>③ まざらない⇒地域の人々が地域の中で「ごちゃまぜ化」できるか</p> <p>外から的人が地域を刺激し、地域内の内発的発展に。</p> <p><u>地域内でごちゃまぜになる「空気感」が重要。</u></p> <p>地域内の3世代が混ざる、ごちゃまぜになる事が必要な集まる地域（面白い地域）は地域自身がつくるもの</p> <p>ごちゃまぜになる場=「地域の縁側」としては以前は公民館、最近では地域食堂・こども食堂。</p>
		<p>4：関係人口と共につくる地域の未来</p> <p>① 地域づくりと関係人口や移住の好循環</p> <p>関係人口づくりの前提として、地域づくり（地域みがき）の実践が人を呼び込む</p> <p>関係人口・移住者が地域づくりを刺激し、活動を活発化</p> <p>② にぎやかな過疎の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口減少だが、人材が増え、地域はガヤガヤとして活気づいている。 ・人が人を呼び、仕事が新たな仕事を生む好循環 ・多様な人材が「ごちゃまぜ」になる場がある ・外との交流を地域のエネルギーとする ・対話とプロセスが重視されている <p>③ 人材育成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>人材とは当事者意識を持つ人々</u> ・人材育成の具体的対応として、公民館活動（社会教育・地域づくりの拠点）、ワークショップ（地元学）、都市農村交流（交流の鏡効果）、高校魅力化（高校生の地域参加） <p>④ 新しい行政のプロセスについて</p> <p>「計画ありき」ではない行政</p> <p>計画にこだわると計画を越えられない。</p> <p>OODA ループ（観察・状況判断・意思決定・実行）、試行錯誤を前提。</p>

		<p>決算を重視する。「実践による出口重視」事業後に検証し、次につなげる。</p> <p>入口・計画は柔軟に、出口・決算はキッチリと。</p> <p>成果</p> <p>新しい地域づくりの視点を学んだ。</p> <ul style="list-style-type: none">① 1つの政策パッケージとして取組みである② 「計画ありき」ではなく、計画は柔軟に、決算・検証をキッチリと行う。③ 関係人口（地域に係ってくれる人）との交流によって地域内を刺激し内発的な発展を促す。④ 地域内でも「自分ゴト」として捉え、多世代が混ざり合う「ごちゃまぜ」の空気感や場が重要である⑤ 関りの階段があり、「北栄町」に関心を持続的にもってもらうためには「関係人口論的運用」の取り組みが必要。 (ふるさと納税・地域に来ていただく体験制度等)⑥ 北栄町の自治会、高齢化等で維持管理や活動困難な状況についてアプローチについては自治会行事・役割についての棚卸しをして、本当に必要なものを残す話し合いの場を設ける。これが、若者の意見を引き出し、当事者意識を育む1歩となる。また、1つの自治会だけではできない機能を「まちづくり協議会」の様な組織をつくるアドバイスをいただいた。 <p>今回の勉強会を通じ、第一に地域住民、63自治会の維持管理の困難さを解消し、住みやすい地域づくりのために、関係人口が増え、にぎやかな北栄町になるよう行政・住民で対話とプロセスを重視し取り組めるよう尽力したい。</p>
--	--	---

提出期限 令和8年1月9日（金）まで